

## コンサルテーション事業支援報告書

事業の名称	STEM 教育の 教室アセスメント	事業代表者	有本 昌弘
対 象	初等中等教育の研究主任や管理職、時に高等教育関係者		
目 的	STEM (Science, Technology, Engineering, Mathematics) 教育等に関する教育関係者との勉強会・研究交流会を実施する。時代の変化や組織の硬直化により、多くの学校が思考・判断・表現など観点別評価の方法と実践で困難に直面している。そこで、カリキュラム・アセスメントに関して専門的立場から、フィードバックや学習機会、動機づけなど、切り口をいくつか用意して、学びの個人化に関する国内の研究知見や動向を提供する。さらに、政策的にも、海外との STEM 教育のコラボをもとに、SDGs (Sustainable Development Goals) 達成担い手の ESD (Education for Sustainable Development) プラットフォームの構築による知見を蓄積していく。さらにユネスコ、OECD や Asian Society, Pearson などと交流を図る。		
実 施 日	月 2~4 回程度	実 施 回 数	
		(月当たり 4h)	
実 施 場 所	オンラインならびに対面 (教育学研究科、東北大学東京分室)		
主なスタッフ	橋本正裕 (仙台市教育委員会) 坂本新太郎 (仙台市教育センター) 北島茂樹 (明星大学) 能美佳央 (秋田県教育委員会) 加藤修三 (東北大学工学教育院)	人 数	
		6 名	
スタッフの 活 動 内 容	大学工学部・高専の PBL、中学校技術家庭、高校工業、小中高数学、高校理科など、各専門分野・領域から、STEM 教育の勉強会を行う。適宜、下記学校の訪問や、研究主任や総合的な学習の評価担当者との研究交流会を持つ。		

<p>事業実施内容</p>	<p>○仙台工業高校では、1年時生徒から質問紙調査によるデータを収集する(6/11, 6/25)と同時に、3年生の課題研究プロジェクトでは、観察とインタビューによる質的データ収集(12/12, 13, 19)を行った。</p> <p>○宮城県立多賀城高校(ユネスコスクール、スーパーサイエンスハイスクール)や仙台市立仙台工業高校ならびに全国校長会をハブにして、仙台市立青陵中等学校、仙台市立広瀬中学校(仙台市教育センター、仙台科学館など)前期中等教育、とのネットワークを強化する。</p> <p>○国立教育政策研究所教育課程研究指定校事業研究協議会(2/5-8)、スーパープロフェッショナルハイスクール(SPH)成果発表会(2/4)に積極的に参加し、担当調査官との接点を持ち、全国とのネットワークの中に位置付けるよう努力を試みた。</p> <p>○県外では、秋田市立御所野学院高校から、システム思考導入による生徒の変容データ提供をいただき、吟味を行った。</p> <p>○福島県双葉みらい学園高校(スーパーグローバルハイスクール)での再生可能エネルギー・プロジェクトワークの取り組みについて、校長とコンタクトをとった。</p> <p>○その他の相談活動</p> <p>SDGsに関して、学校視察及び相談活動(宮城県立岩ヶ崎高校、宮城県立富谷高校)を行った。</p> <p>○現在ある、既存のHP(jafl.com)を、先端としてふさわしいプラットフォームを行う検討を行った。</p>
---------------	---